

# 植物と人々の博物館メールマガジン

第 105 号 2023 年 11 月 1 日発行



秋も深まり、紅葉も始まりました。ユズの実も色づき始めました。マイタケも岡部さんからたくさんいただき、てんぷらにして近親者におすそ分けしました。発泡酒も 1 回目発送ができ、少し安心しました。味もよく仕上がり、山口さんに感謝しています。ゆっくり発酵する酵母だそうで、2 回目発送の方には、キビ新穀でつくりますからさらに年末までお待たせしますが、楽しみにお待ちください。

植物と人々の博物館は今後も継続します。2024 年 4 月を目標に標本、資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、展示も再開します。お手伝いいただければありがたいです。

## 1. 植物と人々の博物館

○開館・作業予定日：2023 年 11 月 13 日、27 日の予定です。2024 年 3 月頃まで、原則月曜日、10：30～14：10 に開館します。この間に、さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行います。また、資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、日程調整して開館します。

担当 木俣 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

## ○報告

1) 民族植物学ノオト第 17 号は 2024 年 3 月末に発行する予定です。皆様も自由にお書きくださり、ご寄稿ください。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。相当数の方々が読んでくださっています。 <http://www.ppmusee.org/goods.html>

## 2) 電子書籍：

編集子は自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は序章から第 3 章インド亜大陸の食文化まで改訂し、旅行記録の一部、第 9 章パキスタン、アフガニスタンを公開しました。現在は、第 12 章中央アジア諸国ほかヨーロッパへと書き進み、たくさんの探検記を参照しています。一方で第 3 章の食文化を大幅増補、第 4 章南インドの雑穀文化複合をまとめています。今後は雑穀の起源と伝播の仮説の検証を行うようにまとめるに向かいます。同時に、50 年の研究成果のまとめとして自選集 V “Essentials of Ethnobotany” の一部公開を進めます。また、自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。

3) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

も国会図書館インターネット資料収集保存事業 ([ndl.go.jp](http://ndl.go.jp)) で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されます。すべての記事は無料で公開しています。

#### 4) 森とむらの図書室への寄贈など

今後のご寄贈は辞退いたします。現在所蔵する書籍を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実します。ご協力いただけるとありがたいです。

#### 5) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金を以前から考えていました。ゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただき、ありがとうございます。これまでに 5,884 円頂きました。植物と人々の博物館への寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしくお願いします。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを保存・公開するために、費目指定で寄付をいただけるとありがたいです。これまでに、多くの方にご寄付を頂き、感謝しています。2023 年度末で決算報告をします。

郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

## 2. 自然文化誌研究会

○予定 詳細はホームページをご覧ください。

12 月下旬（23-25 日 or 26-28 日）、まふゆのキャンプ、15 名 募集。

小菅村のいつものキャンプ場

## 3. 雑穀街道普及会：

本会は目的を果たせず、今後の活動については、関係者の皆様にご相談しましたが、特にご意見はありませんでした。事務幹事の木俣は、役割を果たしましたので、必要な残務整理をしてから、辞任します。また、本会は行政および地域社会からの十分な賛同が得られずに、成果を示せなかったのが、解散しました。この 10 年間の経緯については、「雑穀街道普及会の顛末書～大きな感謝と少ない謝罪（仮題）」を民族植物学ノオト 17 号に書いて、詳細をご報告し、記録を残します。

会費は基本的にはいただいておりませんので、おおかたの活動経費は NPO 法人自然文化誌研究会／植物と人々の博物館へのご寄付ほかで賄っています。したがって、本会に対する関連経費の決算報告の義務はありませんが、誤解が生じないように、最近の決算報告は次の通りです。

### ① 主な使用経費

趣旨説明書（3000 部）印刷代； 141390 円、郵送費； 26070 円、会議費； 40135 円のほか、文具や複写代などは事務幹事個人。

### ② 経費の出所

NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館基金（任意寄附）および事務幹事個人

雑穀街道普及会は解散しましたが、下記ホームページにアーカイブを公開しています。これらは国会図書館のデジタル事業に登録しているので、記録は残ります。

<http://www.millettimplic.net/milletsworld/millstr.html>

<http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

**参考動画** 詳細は下記のウェブサイトをご覧ください。

(33) [雑穀街道を FAO 世界農業遺産に - YouTube](#)

[【報告】FFPJ 連続講座第 21 回：日本における麦・雑穀・豆類の栽培はなぜ衰退したのか - ニュース レポート](#)

#### 4. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

#### ○ 報告

**第 18 回自給農耕ゼミ（佐野川） 8 名参加**

日時：2023 年 10 月 22 日（日）9：00～15：00

場所：神奈川県相模原市緑区の旧佐野川村上岩および藤野

実習：アワ、シコクビエなどの脱穀、防雀網の片づけ。雑談、キビ発泡酒の試飲。

話題提供者：宮本透、木俣美樹男

主催： NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館

\*次回からは冬作麦類の栽培になります。宮本さんからご案内します。楽しくゆったりと野良仕事をしています。引き続き、ご参加ください。

連絡先宮本：[kwangjuu1980@yahoo.co.jp](mailto:kwangjuu1980@yahoo.co.jp)

#### 1) 自給農耕ゼミ（小金井）第 9 回（終）

日時：11 月 19 日（日）14：00～16：00

場所：小金井市中町カエルハウスおよびオンライン（zoom）

（定員：会場 15 名、オンライン 20 名）

**プログラム：**

話題：①果てしない穀実物語 2 世界の穀物料理の起源から心の構造と機能を学ぶ  
～希望は人新世を生き物の文明へと移行することにある～

②雑談、雑穀発泡酒の試飲

話者：木俣美樹男（話題 60 分、雑談 60 分）。

要旨：美味しい料理の研究は多いが、穀物料理の起源研究は少ない。中尾佐助『料理の起源』や『農耕の起原』を読み解き、インド亜大陸をめぐる研究から、世界の穀物料理の起源と伝播についてお話したい。加えて、農耕文化基本複合と心の発達に関連について補足します。

雑談会では、自給農耕ゼミ（佐野川）で栽培したキビを用いた雑穀発泡酒を試飲していただく。

話題仮資料 URL：<http://milletimplic.net/university/farming/grains2story.pdf>

自給農耕ゼミの趣旨：市民農園や都市農業をもっと広げたい、小金井でエディブル・ウェイ（食べられる道）を作ってみよう、エコミュージアムなまちづくり、雑穀や野菜の在来品種についてもっと知りたい、どのように幸せな暮らしを築くのかなどなど、家族農耕 farming をゆったりと語りあう会です。希望は人新世を生き物の文明へと移行することにあると思います。お気軽にご参加ください。

参加申込みをしてくださった方には当日の ZOOM の URL と会場配布資料をメール添付でお送りします。来場をご希望の方には会場定員内で交通案内をお伝えします。

協催：カエルハウス運営委員会、NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館

申込み連絡先：042-316-1511（カエルハウス運営委員会）または

[office@katayamakaoru.net](mailto:office@katayamakaoru.net)

\*会場参加費は 300 円（お茶、資料代）、任意の寄付。

\*このゼミの動画、話題資料などは、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、互いに体験と知識など学び合う環境学習市民連合大学の下記サイトで一般公開します。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

\*内容についてのご質問は [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp) 木俣美樹男（事務担当）

ZOOM の URL：オンライン・アクセス先は参加申込者にメールで連絡します。

## 2) 雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ 復刻企画 詳細は別添付、東京学芸大学公認事業

目的：国際雑穀年を記念し、雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録する活動を普及促進するために、雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ（素美暮発泡酒）を、国際雑穀年・東京学芸大学創基 150 周年記念として復刻醸造しました。第 1 回目は 9 月 20 日に発送しました。とても評判は良いです。第 2 回は自給農耕ゼミで栽培した新穀キビを使用、醸造し、12 月末の発送になるようです。2 回目のお申し込みの方には出来次第、改めて発送日などをご連絡します。募集は終了しました。ご協力ありがとうございました。醸造所には前払い（40 万円）でお願いしていますので、お振込み頂けると助かります。決算報告は清算後に関係者の皆様にお送りします。

企画団体：東京学芸大学雑穀発泡酒復刻有志ほか、植物と人々の博物館／日本村塾自給農耕ゼミ（佐野川）

連絡先：[kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp) 木俣美樹男（事務担当幹事）

◎随筆；雑穀物語 5 守屋竹治・秋子夫妻

山梨県小菅村には 1977 年以來、何百日も通いました。とりわけ、2001 年以降に、自然文化誌研究会の拠点を小菅村においてからは、エコミュージアム日本村づくりを中心に多くの村民の皆様にお世話になりながら、環境教育セミナーや冒険学校、東京学芸大学の野外実習、など数多くの地域振興や環境学習普及啓発活動を行ってきました。自然体験は木下稔さん、亀井雄二さん、加藤源久さんら 100%自然塾の皆さん、生活体験は守屋秋子さんら伝統知顧問の皆さんに教えていただけてきました。ミュージアム研究会では青柳諭さんらと学び合い、植物と人々の博物館は加藤増夫さんや木下吉晴さんらに館長を務めていただけてきました。それでも、衰退を止めようがない山村農耕を継承するために、雑穀街道普及会を 2014 年から始めて、FAO 世界農業遺産登録申請を目指してきたのです。

伝統的な生活体験は自然体験と同様に、とても大事なことで、人間が心の構造と機能を万全に発達させるための基盤です。自然文化誌研究会は本来大学探検部として創立したのだが、東京学芸大学の特色から、学生と子どもたちとの環境学習実践を重んじ、冒険学校を開催、継承してきています。とりわけ生活体験については、生業から農林漁業の直接体験を実施しています。この際に、重要な伝統的生活技術の伝承者はとても貴重な存在です。

さて、その重要な役割を守屋竹治・秋子夫妻が演じてくださってきたのです。学生の野外実習はご夫妻が経営していた船木民宿で実施することも何度かありました。竹治さんの畑の出作り小屋を訪問すると、いつもリポビタン D を飲むように勧められました。私は退職後に、この畑を引き継ぎ、お借りして 6 年間、山村農のまね事をしたのです。竹治さんの焼いた山女魚はとても美味しかったです。秋子さんの、ソバ打ち、コンニャクづくりなど、大学院生たちも美味しく楽しんだと思います。

秋子さんは健康長寿で、今でも 3 輪スクーターに乗って、畑で栽培した野菜を道の駅に運んでいます。私とてもう後期高齢者、70 歳で自動車運転は止めています。それでも、彼女からすれば私など、まだ子ども扱いです。最近、私への来客が多かったので、なんだか自家製酒まんじゅうまで作って、歓待して下さいました。国内外からの来訪者が秋子さんの恩情に大いに好意を抱いたことだろうと思います。記憶力はすばらしく良く、経験したことはちゃんと教えられると、彼女は物知りで、誇りも高いのです。私の旧知のおばあの中では、椎葉村の椎葉クニ子さんと並び賞賛したいです。



\*雑穀物語 1～4 は「つぶつぶ」誌に、立花夫妻、降矢夫妻、貝澤夫妻、椎葉夫妻の物語としての連載しました。引き続き、メルマガで連載をします。

~~~~~

## 植物と人々の博物館 (山梨県小菅村) :

館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男 (東京、専任、担当運営委員)、西村俊 (石川、担当理事)、井村礼恵 (東京、担当運営委員)、川上香 (長野)、渡辺隆一 (長野)、Sofia M. Penabaz-Wiley (千葉)、伊能まゆ (ヴェトナム)、大澤由実 (神奈川) ほか

公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村／ミューゼス研究会 (山梨県小菅村)：代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

自然文化誌研究会：代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/> 事務局長：黒澤友彦 (山梨県小菅村)

~~~~~

## 写真



佐野川の自給農耕ゼミの雑穀畑で栽培したキビを加えた発泡酒ソビゴ・ピーゴスエーデンから調査に来られた槌本さんが撮ってくださった秋子さんと編集子



見本園での種子継、プランタでの種子継

### 植物と人々の博物館

腊葉標本：海外調査収集、  
実験証拠標本



キビの祖先  
野生種

### おわりに {ひとりごと／編集子私言}

日本国は相変わらず、国内外の野良で働く人々から、食糧を奪い取る政策を続けています。経世済民、国民・市民を飢えさせないということは為政者の第一の責務です。耕作放棄地は多い、所有者不明山林も広大にあります。農業が金銭的に引き合わなくても、家族農耕・農業を楽しく続け、自らや家族のために食べものを作りましょう。国連家族農業の10年、国際雑穀年も日本の為政者やおおかたの国民・市民は関心すらありません。子どもたちの学校忌避や愛学心の喪失、大人たちの引き籠もりや愛くに（郷）心の衰微、その自尊心、誇りを失っている根本原因を事実として明かし、深く考えて、希望のある課題解決方策を見つけて、実践しましょう。日本国の減反政策、あるいは拡大政策には期待できないので、小規模家族農業を再開しましょう。せめてベランダ菜園、自給農耕、市民農園などに参加し、穀物などは少し備蓄し

ておきましょう。できれば農家の手伝いをして、契約・提携農家になってもらうなど、緊急時にも食料を分けてもらえるような関係になることを勧めます。

私はもうしばらくして、恐怖を煽るばかりの冷酷、非道な今の世間から消えて、人生の後始末をしながら、学びのみを遊びます。世間の老若男女は心の構造も機能も未発達で、郷土を大切に思い、誠実に暮らしてきた篤農や学者に敬意を持たずに、その私利私欲に止まる彼らには言葉が出ないです。もう彼らに向かって話すことも書くこともしません。人新世の何事もいずれ彼ら自らが贖わなければならないのでしょうか。

人生の最大遺物である希望は自選集として、ホームページに残して置きます。書きたい本を書き、無料公開し、売るための原稿や本はもう書きません。心を成長させるために、読みたい人だけに読んでいただければよいです。山村調査、栽培試験、植物実験、環境学習普及など、本当にたくさん働きましたので、書籍、資料、標本などの後片付けが大変です。できる限り、心ある皆様にはご利用いただけるように、多くの先達からお預かりしてきたこれらの書籍資料や聞き取り収集した原データなどを整理して、残して置きます。国内外の数百人の篤農から伺ったお話はとても貴重です。